



「国保の業務に携わって」



高山市 市民課長

田中 一美

平成26年4月の人事異動で市民課長を拝命してはや三年目、これまで一度も経験の無い課での広い業務内容に苦労しましたが、振り返ると市民目線で考えられた点は良かったかなと思います。初心者課長を支えてくれる職員の理解と協力を改めて感謝しています。

高山市の特徴は、医療費の低さと収納率の高さで、医療機関が少ないという地域性と保健事業（健康診査と細やかな保健指導）の効果、収納は早くから徹底して保険料の口座振替を進めたことが大きいと思っています。しかし当市でも高齢人口の増加により年々一人あたりの医療費は伸びています。医療費の抑制と健康寿命延伸のために、平成27年度では52・2%だった特定健康診査受診率のさらなる向上により、生活習慣病を早期に発見し、重症化予防を進めることが最も重要だと考えています。

また、今後は前期高齢の年齢層に対してフレイル（虚弱）予防を取り入れることで、介護認定者の減少や後期高齢者医療の医療費の減少にもつなげていきたいと思いい、担当間で協力連携の方法を検討しているところです。

こんなふうに健康に関わる仕事に携わらせていただいています。さて自分の健康管理は……なかなか難しいですね。

高山市は周囲が全て「山」ですから、小さい頃から父に連れられて夏は登山、冬はスキーと自然の中で遊ぶのが大好きで、泊まりがけの縦走や単独登山、スキもシーズン券で足しげく通っていました。体力もそれなりに自信がありました。結婚して子どもが

まれ、仕事が忙しくなりe t c、と言いつが多くなつてだんだんと運動から遠ざかってしまいました。

今では職場でのラジオ体操のみ。家で台所から部屋に戻ると、主人がマットを敷いて一生懸命に腹筋運動や筋トレをやっているのを横目に見てうとうと舟をこいでいる状態です。

そんな訳で順調に健診時にはチェックも入り、そろそろ本気で運動しないとマズイなど自省しているこの頃です。

さて、着任当初から国保関係の会議においては「国保の広域化対応」が話題の中心であり、先輩課長から準備や広域化に向けた協議についての考え方を伺ってきましたが、いよいよ今年度は本格的に準備が始まりました。

国は持続可能な社会保障制度の確立という大枠の中で方向性を提示しましたが、平成30年度の県単位化まであと一年三か月というのに、被保険者の皆様と直接対応する市町村事務に関しては効率化や統一した考え方が定まっておらず先行きが不透明で、今この状態で本当に大丈夫かと心配になります。

県単位化に伴い事務も大きく変化しますから、早期に市町村間の協議を進め、来年の今頃は新年度からの業務についてある程度の手合わせができて、ほっと一息したいなんて思うのは「夢のまた夢」でしょうか？

平成29年はさらに忙しい一年になりそうですが、皆さん一緒に頑張りましょうね！